



エヴァ・ファブレガス 《からみあい》2020年 「ヨコハマトリエンナーレ2020」 展示風景
撮影：大塚敬太 写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会



マイケル・ランディ 《アート・ピン》2010/2014年 「ヨコハマトリエンナーレ2014」 展示風景
撮影：加藤健 写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会

横浜トリエンナーレ

神奈川県 横浜市



ニック・ケイヴ 《回転する森》2015年（2020年再制作）
©Nick Cave
「ヨコハマトリエンナーレ2020」 展示風景
撮影：大塚敬太 写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会



アイ・ウェイウェイ (艾未未) 《安全な通行》2016年《ReFrame》2016年
「ヨコハマトリエンナーレ2017」 展示風景 (横浜美術館)
撮影：加藤健 ©Ai Weiwei Studio 写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会

横浜トリエンナーレとは

チェ・ジョンファ
《フルーツ・ツリー》2001年
撮影：加藤健
写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会

横浜で3年に1度行われる現代アートの国際展で、
2001年から継続して20年以上続いているイベントです。

世界の各地域から話題のアーティストや新進のアーティストたちが参加し、
みなとみらいを中心とする横浜都心臨海部を舞台に作品を展示したり、
パフォーマンスを繰り広げるなど、世界最新の現代アートを披露します。
2001年にスタートし、現在“横トリ”の愛称で親しまれています。



エルムグリーン&ドラッグセット《落っことしたら受けとめて》2008 撮影：櫻井ただひさ
写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会



ダニエル・ビュラン《海辺の16,150の光彩》横浜、日本、2005年9月
© DB - ADAGP Paris
撮影：安齋重男
写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会



横浜トリエンナーレ開催実績

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
開催年	2001	2005	2008	2011	2014	2017	2020
総事業費 (3か年)	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9.6億円	約10億円
総来場者数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人	約21万人	約26万人	約15.4万人
チケット販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚	約10万枚	約6.2万枚 ※感染防止のため 入場制限を実施
報道実績	237社以上 (うち海外36社以上) ※掲載件数記録なし	1,089件 (うち海外40件)	1,233件 (うち海外165件)	1,763件 (うち海外139件)	3,899件 (うち海外117件)	6,923件 (うち海外314件)	4,238件 (うち海外257件)
パブリシティ効果	-	-	-	約47億円	約52億円	約50億円	約51億円
経済波及効果	-	-	-	約32億円	約23億円	約35億円	約23億円

横浜トリエンナーレ来場者データ

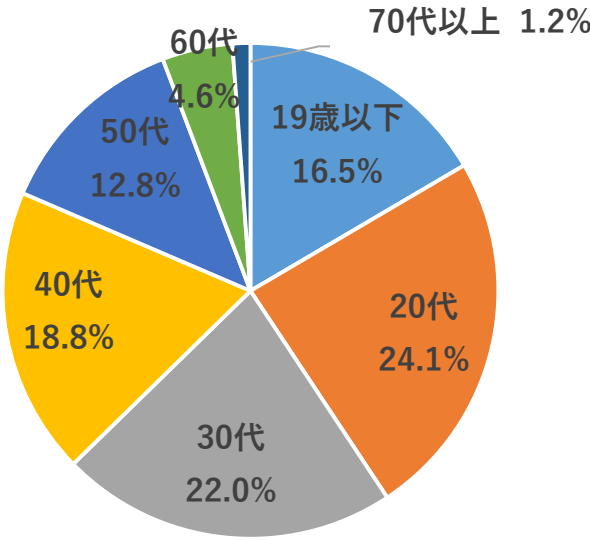
※ 2020年展 来場者データ

・男女比は女性が約6割、年齢では、様々な世代の方にご来場いただいておりますが、若年層の割合が高くなっています。
・居住地では市内や都内の方の来場割合が高くなっています。

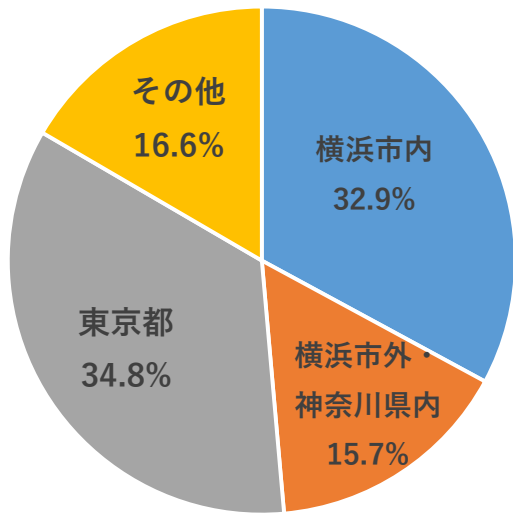
性別

女性:62.8% 男性:35.0% その他:2.2%

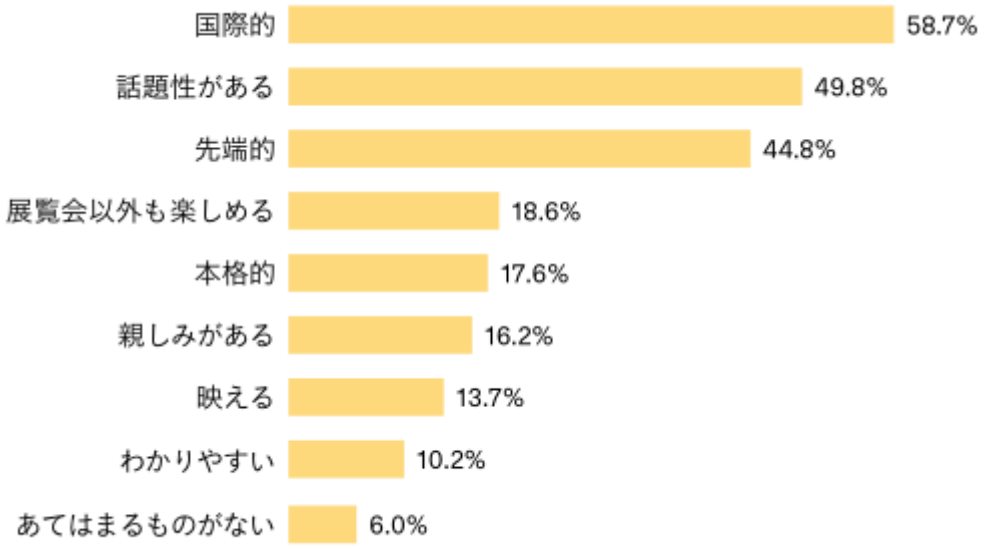
来場者年代(中学生以下を含む)



来場者居住地



横浜トリエンナーレのイメージ(複数回答可)



・横浜トリエンナーレのイメージについては、多くの来場者が「国際的(58.7%)」「話題性がある(49.8%)」「先端的(44.8%)」と回答しています。

横浜トリエンナーレの基本的な考え方

使命

横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

目標

世界とつながる

ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。

アートでひらく

ひらかれた現代アートの祭典として、誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。

まちにひろがる

文化芸術創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。

行動指針

・世界水準 ・次世代育成 ・共生社会実現 ・市民参加 ・祝祭性 ・賑わいづくりと経済活性化 ・SDGs

第8回横浜トリエンナーレ

野草：いま、ここで生きてる / Wild Grass: Our Lives

【開催概要】

会期：令和6年3月15日（金）～令和6年6月9日（日）
10時～18時（予定）

開場日：78日間（4/4、5/2、6/6を除く毎週木曜日休場）

主会場：横浜美術館（横浜市西区みなとみらい3-4-1）
旧第一銀行横浜支店（横浜市中区本町6-50-1）
BankART KAIKO（横浜市中区北仲通5-57-2
KITANAKA BRICK & WHITE 1F）

主催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、
NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

AD(アーティスティック・ディレクター)：リウ・ディン（劉鼎）、
キャロル・インホワ・ルー（盧迎華）



撮影：笠木靖之



撮影：大野隆介



アーティスト・ディレクター

北京を拠点として国際的に活躍する2人組が中国を代表する小説家魯迅の散文集『野草』から着想したコンセプトのもと、国際的な対話の糸口となる展覧会を構想します。

第8回 横浜トリエンナーレ ✨
8TH YOKOHAMA TRIENNALE
野草: いま、ここで生きてる
WILD GRASS: OUR LIVES



リウ・ディン（劉鼎）、キャロル・インホワ・ルー（盧迎華）

【近年の主な共同キュレーション】

北京インサイドアウト美術館での主な展覧会企画に「Notes: Chinese Artistic and Intellectual Voices from the End of the Twentieth Century」2022年、「Waves and Echoes: Postmodernism and the Global 1980s」2021年。このほか、トランス東南アジア・トリエンナーレ「Sounds as Silence: The Academic Value of Life」広州、2021年、安仁ビエンナーレ「Crossroads」安仁、2017年、深圳彫刻ビエンナーレ「Accidental Message: Art Is Not A System, Not A World」OCT、深圳、2015年、「Little Movements: Self-practice in Contemporary Art」第1回:OCT、深圳、2011年／第2回:ムセイオン、ボルツァーノ、2013年／第3回:国立アジア文化殿堂、光州、2015年。

第8回展のコンセプト

野草：いま、ここで生きてる / Wild Grass: Our Lives

アーティストック・ディレクターのリウ・ディン（劉鼎）とキャロル・インホワ・ルー（盧迎華）の二人は「野草」の言葉を、日本にゆかりの深い中国の小説家、魯迅（ろじん）の詩集『野草』（1927年刊行）からとりました。約100年前、時代の波に翻弄（ほんろう）された魯迅は、絶望の中に小さな希望を見出す自らの生き方を、もろくて無防備で、しかし同時にたくましく生き延びる力を持つ野の草にたとえました。コロナ禍や戦争、環境破壊や経済格差、そしてインターネット上にあふれるフェイクニュースや自己責任論——わたしたちの日々の暮らしもまた、数々のむずかしさを抱えています。展覧会は、魯迅の時代を出発点に、東西冷戦の終結など、今日の息苦しさを生む原因となったいくつかの歴史的なできごとをたどります。これらを手がかりに、世界中から集まる現代アーティストたちの作品を通して、今ここにあるわたしたちの生き方をふり返し、その先にきっとある希望をみなさんとともに見出したいと考えます。

主な参加アーティスト



ヨアル・ナンゴ
Joar NANGO



《GIRJEGUMPI: The Sámi Architecture Library in Jokkmokk》2018
Photo: Astrid Fadnes



SIDE CORE/EVERYDAY HOLIDAY SQUAD
《rode work ver. under city》2023, Courtesy of CCBT

SIDE CORE



Photo: Shin Hamada

2024年 3月15日(金) - 6月9日(日)
MARCH 15 - JUNE 9, 2024

第8回 横浜トリエンナーレ ✨
8TH YOKOHAMA TRIENNALE

野草：いま、
ここで生きてる

WILD GRASS:
OUR LIVES

横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO
Yokohama Museum of Art,
Former Daiichi Bank Yokohama Branch, BankART KAIKO

最先端のアートに触れながら

～海を眺め、秘められた歴史を感じる



(top) Yokohama Museum of Art
(bottom left) Former Daiichi Bank Yokohama Branch
(bottom right) BankART KAIKO (Photo: OHNO Ryusuke)

横浜美術館をはじめとする有料会場だけでなく、気軽に足を運べる公共空間にも作品を展示し、無料会場とする予定です。また、横浜駅から関内・関外、元町・中華街、山手までの幅広いエリアで、諸施設・イベント等と連携した多彩なプログラムを展開し、横浜の歴史に触れながら最先端のアートを存分にお楽しみいただけます。

[凡例]

- 横浜トリエンナーレ会場
- 関連プログラム会場

横浜の観光資源×アートの相乗効果

横浜駅から元町・中華街、山手地区の幅広いエリアで、諸施設・イベント等と連携した多彩なプログラムを通じて、春の横浜の魅力とアートを同時に楽しむことができます。



Kishamichi Promenade



#応援プログラム



誰もが多様な表現に触れるきっかけに

気軽に楽しめるプログラムを充実させることで、「誰もが」「ゆとりを感じながら」横浜トリエンナーレを楽しみ、多様な表現に触れるきっかけとなるような機会を創出します。

#気軽に楽しめるワークショップ



#親子でおしゃべりしながら鑑賞

生まれ！未来のクリエイター

参加者募集 
<https://www.yokotori-es.jp>

横浜トリエンナーレ
オリジナルグッズ
開発ワークショップ

参加希望者は説明会の出席が必要です
 説明会日時
 リアルタイム配信
 2023.11.24 | 金 | 17:30~18:30
 アーカイブ配信
 2023.11.25 | 土 | 10:00~

対象：高校生以上
 定員：50名 ※応募多数の場合は抽選
 参加費：無料

主催 横浜トリエンナーレ
 実行委員 ぴよ、こゝ生でる

協賛 横浜トリエンナーレ 実行委員会、NTT Art&Technology

横浜トリエンナーレ
オリジナルグッズ
開発ワークショップ

参加者は、第3回横浜トリエンナーレのテーマ「暮らし、ここで生まれる」を題材に、企画者によって
 異なるオリジナルグッズのアイデアをグループで話し合い、試作品を制作して審査員の前で発表します。
 試作品の制作は、レーザーカッター、3Dプリンター、デジタルファブリケーション
 機材を使っています。審査で選ばれた優秀作品は、実際に商品化し、オリジナルグッズとして「未来
 のクリエイターズ」として、展示会の会場に販売します。機会がなかったら作品も、試作
 品の画像を入手予定です。また、優秀作品の発表にあたり、審査員のためにオリジナルデザインや機材
 数量などを決定する過程も体験形式で学ぶことができます。

※応募は2023年11月24日（金）17:30までです。応募締め切りは2023年11月24日（金）18:30です。
 ※応募は、説明会出席者（無料）のみです。応募は<https://www.yokotori-es.jp>から行います。

DAY	内容	時間
1	オリエンテーション テーマ説明 グループディスカッション グッズの企画検討 2024.1.14 日	10:00~17:30
2	試作品の制作 (オンライン配信あり) 2024.1.20 土 もしくは 1.21 日	10:00~17:30
3	プレゼンテーション 2024.2.4 日	10:00~17:30
4	オンライン開催 2024.3月下旬予定	

注意事項

- オンライン説明会への参加：2023.11.24 | 金 | 17:30~18:30 | アーカイブ配信：2023.11.25 | 土 | 10:00~
- オンライン説明会の参加は、無料です。説明会への参加は、無料です。説明会への参加は、無料です。
- ワークショップへの参加は、無料です。ワークショップへの参加は、無料です。

お問い合わせ：横浜トリエンナーレ 実行委員会 | info@tri-art&tech.org

主催 横浜トリエンナーレ
 実行委員 ぴよ、こゝ生でる

協賛 横浜トリエンナーレ 実行委員会、NTT Art&Technology

横浜トリエンナーレならではの取り組み

20年以上継続して開催を続け、市民に定着している「横浜トリエンナーレならではの」先駆的な取り組みを実施します。

横トリ“思い出”募集



第1回の時見たバツタに衝撃を受け…

横浜市のSDGs認証制度 “Y-SDGs”への参画



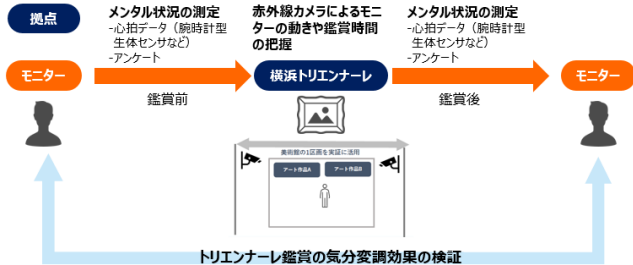
こんなSDGsに取り組んでいます！



幅広いパートナーシップを築きながら
ひらかれたアートの祭典を開催しています！

持続可能な社会の実現には、行政、企業、地域など多様なステークホルダーとの連携が重要だと考えており、「世界とつながる」、「アートでひらく」、「まちにひろがる」ことを目標とし、幅広いパートナーシップを築きながら、来場者が現代アートを通じて「SDGsを考える機会」を提供していきます。

大学との連携 (共同研究など)



当時は良く分からなかった、今になって…

アート鑑賞による心理的効果の実証実験などを大学と連携して実施！

寄附メリットなど

国内最大規模の都市型の現代アートの国際展の継続した開催を通じて、横浜から新しい価値観を発信し、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

企業様へのメリット

社名テキスト掲載 ※公表をご承諾いただいた企業様のみ掲載	横浜市Webページでのご紹介、プレスキット、公式カタログ、公式記録集
社名ロゴ掲載（小）～ ※寄付金額に応じたサイズのロゴを掲載	横浜トリエンナーレ公式Webサイトへの掲載
市長名での感謝状贈呈など	感謝状、記録集、公式カタログ
ブランドイメージの向上に寄与します	SDGs、地方創生(横浜市の文化芸術施策への支援)への貢献、 ※その他 企業様のブランドイメージ向上に寄与できる取組を検討中

お問い合わせ先

横浜市にぎわいスポーツ文化局

創造都市推進課（横浜トリエンナーレ担当）

丸山、小川、福重

電話：045-671-2278

email: nw-tri@city.yokohama.lg.jp